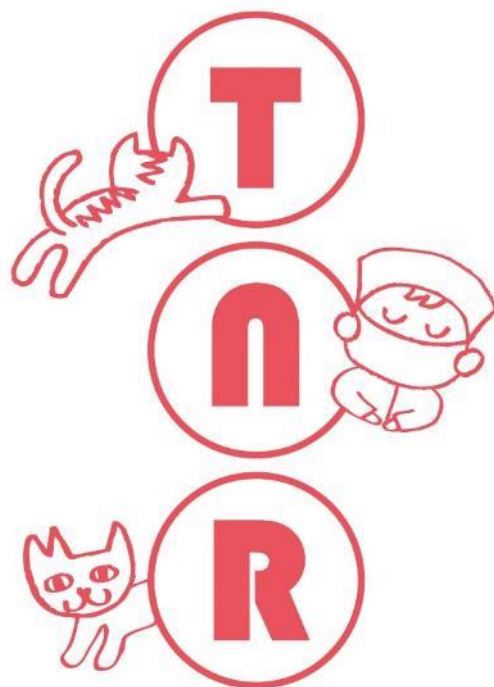


多頭飼育崩壊手術支援（東京都） 実施報告書



doubutukikin since 1988

主 催：公益財団法人どうぶつ基金

日 程：平成28年10月13日（木）（手術日）

東京都中野区多頭飼育崩壊現場

申請日：2016年9月26日

場所：東京都中野区

実施責任者：A氏

協力団体：中野区南中野地域ねこの会

渋谷区代官山あいごネット

渋谷区幡ヶ谷ワンネス・ヒトネコ連

居住環境：3階建ての持ち家

居住者：夫（50）、妻（当事者48）、長男（17）、長女（15）の4名

生活保護の需給状況：受給していない



目的

多頭飼育崩壊状態にある当事者宅の全頭不妊手術の実施により、繁殖を抑制し、管理できる数にとどめる。また不妊手術により、猫の鳴き声や糞尿被害を抑える。

背景（報告書より）

最初は2匹だった猫が近親交配により3年ほどで70匹以上に増えた。当事者は、避妊去勢手術をしなければいけないという認識も低く、また頭数が急激に増えるとは思ってもしなかった。猫の餌や治療費などの費用に追われる毎日で、掃除も行き届いていない状況の中、糞尿の悪臭、ダニの大量発生により家族には皮膚にアレルギー症状が出ていた。悪臭により近隣からの苦情もある中、不妊手術費用はおろか、子供たちにもかけるべき費用も捻出できず、誰にも相談できないまま、様々な問題を抱えることになり、当事者は精神的に追い詰められていた。2016年5月頃、当事者宅付近で糞尿と大量エタノール臭の苦情相談が実施責任者A氏に多く寄せられていたため現場調査を開始。1か月ほどで、臭いの発生源となっている一戸建てを確認、多頭飼育崩壊状態であることが判明した。実施責任者A氏がどうぶつ基金に支援を申請、A氏を中心としたボランティア団体3つとどうぶつ基金が協働して、出張不妊手術を実施することとなった。

改善前の様子

猫の餌や治療費などの費用に追われる毎日で、掃除も行き届いていない状況の中、糞尿の悪臭、ダニの大量発生により家族には皮膚にアレルギー症状が出ていた。



- Before
元子供部屋。ゴミや糞尿が散乱し、非常に不衛生な状態だった

改善後の様子・ボランティアの働き

ボランティア数名による1週間がかりの清掃により生活環境の改善が実施された。当事者宅から出た(糞尿が付着した)ゴミ袋100袋以上の中身の不燃物を、細かく裁断してくれた近隣住民の87歳の男性1名の方のサポートが大変有り難く、助かった。多頭飼育崩壊は大量のゴミ、悪臭問題でもあり、地域環境に影響する社会問題だと感じた。
※ボランティアから寄付された物資：猫トイレ、猫砂、フード、餌箱



- After
1週間がかりで、猫のためのきれいなトイレ部屋へと生まれ変わった元子供部屋



- 100袋以上のゴミ袋
ゴミを細かく裁断してくれたのは87歳の近隣住民だった



- 多頭飼育崩壊現場のリビングを手術室として使用



- きれいに清掃された元子供部屋で手術を待つ猫たち

タイムスケジュール

10月12日(水) 準備日		10月13日(木) 手術日	
9:00	会場設営	9:00	朝礼
15:00	手術台設置	9:30	手術開始
		17:00	手術終了
		18:00	撤収完了・終礼

協働人数

所属	10月12日(木) 準備日	10月13日(木) 手術日
どうぶつ基金	スタッフ2名	スタッフ2名 獣医師2名
ボランティア獣医師	—	2名
中野区南中野地域ねこの会	1名	1名
渋谷区代官山あいごネット	1名	2名
渋谷区幡ヶ谷ワンネス・ヒトネコ連	2名	2名
近隣住民	—	1名

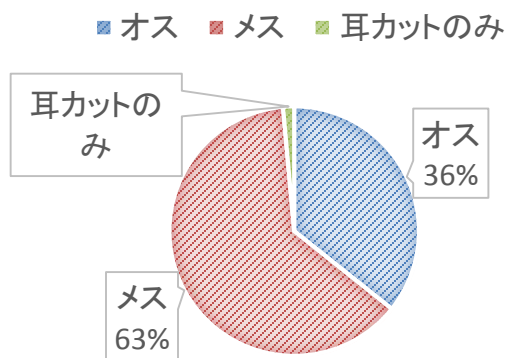
出張手術数

手術日	オス	メス	耳カットのみ	計
10月13日(木)	2 5	4 4 (内妊娠4)	1 (オス)	7 0

処置内容

不妊去勢手術、ワクチン、
ノミ・ダニ・回虫の駆除薬
(レボリューション)、
点眼、補液50cc

オスメスの割合



チケット発行・その後の手術実施状況

- 2016年12月にメス4匹を手術終了。
- 2017年2月にオス2匹、メス2匹の手術完了。
- 残りのオス1匹、メス1匹については、現時点(2月)で麻酔に耐える体重に満たないので、大事をとって3月以降の手術が良いと獣医が判断。現在経過観察中。



- 10/13撮影の仔猫。手術に耐えうる大きくなるのを待って、順次手術を実施している



● 山口獣医師長



● 足立獣医師



● 齋藤獣医師 (ボランティア参加)



● 平野獣医師 (ボランティア参加)



●朝礼風景



●手術開始



●スタッフは会場準備や獣医師のサポート



●NHK、共同通信の取材

- 2016年11月15日 NHK クローズアップ現代+ (22:00~)



- 2016年11月11日 中日新聞夕刊



- 2016年11月11日 山陽新聞



- 2016年11月16日 中國新聞



- 2016年12月9日 NHK かんさい熱視線 (19:30~)



- 2016年12月1日 TBS あさちゃん! (7:00~)





多頭飼育崩壊は大きな社会問題であるとの認識を強く感じた。当事者だけの解決は不可能。どうぶつ基金とボランティア、地域住民、行政の支援が必要であるとともに、当事者の精神面のケアが大事であると思う。地域から孤立させないように、渋谷区・中野区のボランティアが今後も継続して支援していくことになった。

中野区南中野地域ねこの会
渋谷区地域猫ボランティア
幡ヶ谷ワンネス・ヒトネコ連

今回のケースでは地元の複数の猫ボランティアグループが協働して問題解決にあたった。多頭飼育崩壊を起こすのは猫ではなく人である。不妊手術をしてこれ以上猫が増えなくなったからと言って全てが解決できたわけではない。当事者家庭のケアは猫ボランティアさんたちによって今も続いている。人の心のケアに関しては行政による専門家の関わりが必要だと強く感じた。

どうぶつ基金理事長 佐上邦久



公益財団法人どうぶつ基金

中野区南中野地域ねこの会

渋谷区代官山あいごネット

渋谷区幡ヶ谷ワンネス・ヒトネコ連